北海道離島航路確保対策協議会（奥尻航路）地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

奥尻島と本土とを結ぶ唯一の航路である「江差～奥尻島航路」は、島民の本土との往来に加え、島内工事に伴う車両や物資、新聞や宅配便などの輸送を担うとともに、観光客の移動手段としても多く利用されている重要な航路であり、本航路の利用が不可欠な状況にある。

離島住民の人口は、昭和３５年の７，９０８人をピークに年々減少しており、令和４年３月現在では２，４４５人となっているなど、航路を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いている。事業者は、運航経費の削減に加え、奥尻町と連携した利用促進等に努めてきたものの、事業者単独で航路を維持していくことは困難な状況にあり、今後も安定した航路運営を図り維持していくためには、公的な支援が必要な状況にある。

生活交通確保維持改善計画の目標

本航路における年間利用者を見ると、令和元年度～２年度では、全体の約４割が島民利用となっており、残る６割が、工事関係者や観光客などが占めている。

今後は、人口減少に伴い、町民利用を増やすことは難しいと考えられることから、観光関連事業者へのセールス強化、個人旅行者へのホームページ及びＳＮＳなどを利用した情報発信の更なる強化、リピート客増加や新規顧客開拓を目的とした商品開発に取り組んで一般旅客数の増加に努めていく必要がある。

補助対象年度である令和４年度（令和３年１０月～令和４年９月）については、今後の新型コロナウイルス感染症の影響による旅客の動向見通しは不透明であるが、今後の回復を見込み５１，４８０人とし、可能な限り欠損額の増加の抑制に努める。

地域公共交通の現況

＜江差側＞
・函館バス（株）
　～フェリー乗場前から函館市、木古内町、熊石方面などの１４系統が停車
＜奥尻側＞
・町営バス
　～フェリー乗場前から北部･南部方面が停車
・ＪＡＬ
　～奥尻空港から函館空港、丘珠空港へ運航

協議会開催状況

令和３年８月１９日（Ｒ３第１回・対面）
（主な協議事項）
　・本協議会の設立
令和４年３月３１日（Ｒ３第２回・書面）
　・ダイヤ改正に係る計画変更
令和４年６月１６日（Ｒ４第１回・書面）
　・燃料サーチャージ導入に係る計画変更
令和４年７月１４日（Ｒ４第２回・対面）
　・令和５年度計画の検討
令和５年２月　３日（Ｒ４第３回・書面）
　・利用促進等に係る計画変更
令和５年２月１０日（Ｒ４第４回・書面）
　・令和４年度事業評価の検討

令和４年度事業概要

奥尻島と本土とを結ぶ唯一の航路であり、島民の本土との往来に加え、島内工事に伴う車両や物資、新聞や宅配便などの輸送を担うとともに、観光客の移動手段としても多く利用されている重要な航路である。

通常は１日２便運航であるが、繁忙期等（１０月１日～１０月３１日、４月２９日～５月５日、７月１日～８月３１日）においては１日４便の運航をすることとしている他、島内で使用する工事車両の運搬のため臨時便を運航している。

令和４年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

航路事業者は、離島航路事業運航計画に基づき、観光関係事業者へのセールス強化や個人旅行者へのホームページやＳＮＳを活用した情報発信などの更なる強化に取り組んだ他、関係機関と連携し、次のとおり事業を行った。

①奥尻町と連携した取組

観光客など来島者が、島内各所で実施している体験プログラムに参加いただき、対象の宿泊施設に宿泊した際に、帰りのフェリー運賃が無料になるキャンペーンを実施（R4.4.29～R5.1.31）

②北海道檜山振興局と連携した取組

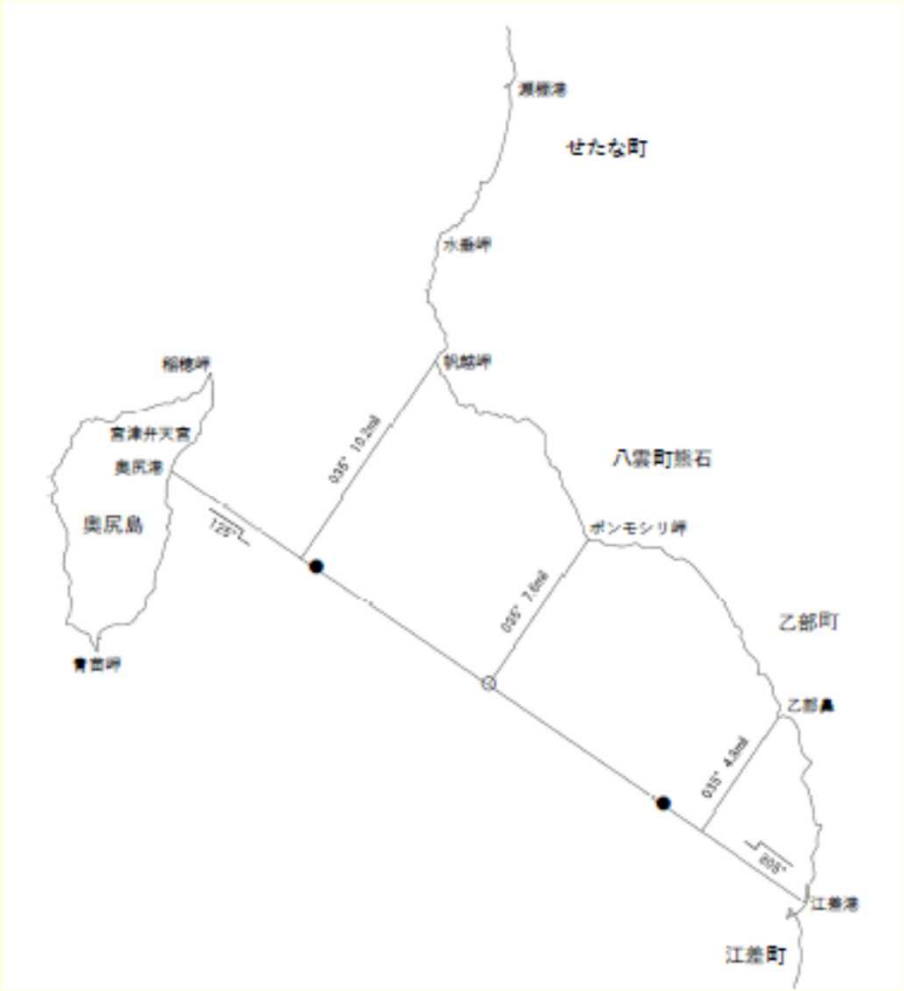
・札幌や函館、東京、大阪で町と連携しながら、フェリー往復チケットが当たる等の観光PRを実施（R4.5他）
・タウン情報誌と連携しフェリーの往復乗車割引をPR（R4.7～9）

③フェリー会社の主な取組

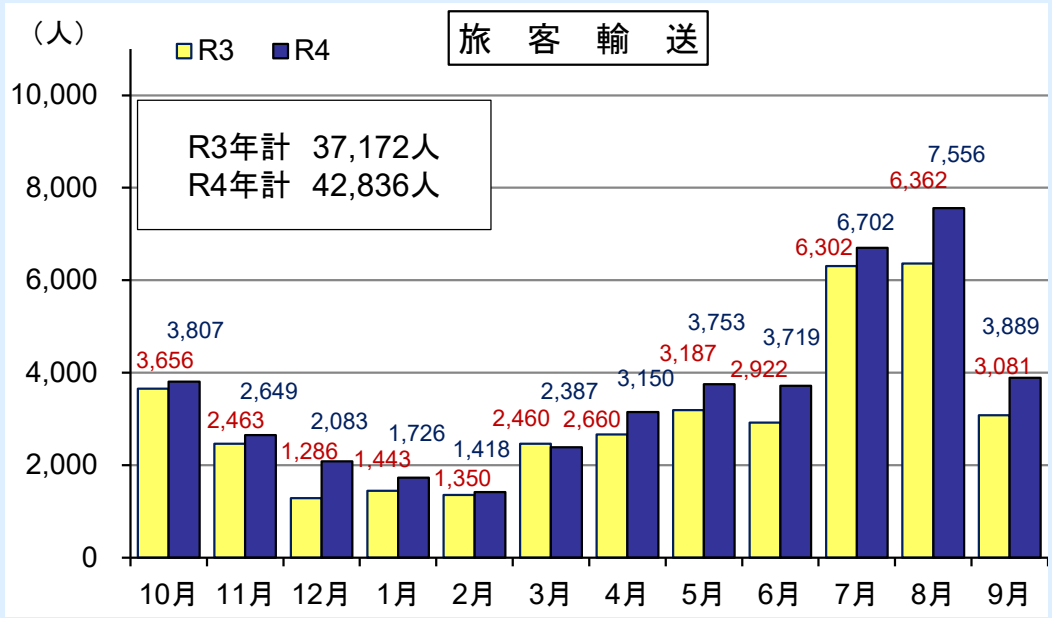
奥尻・江差支店の人員削減、役員報酬の減額など

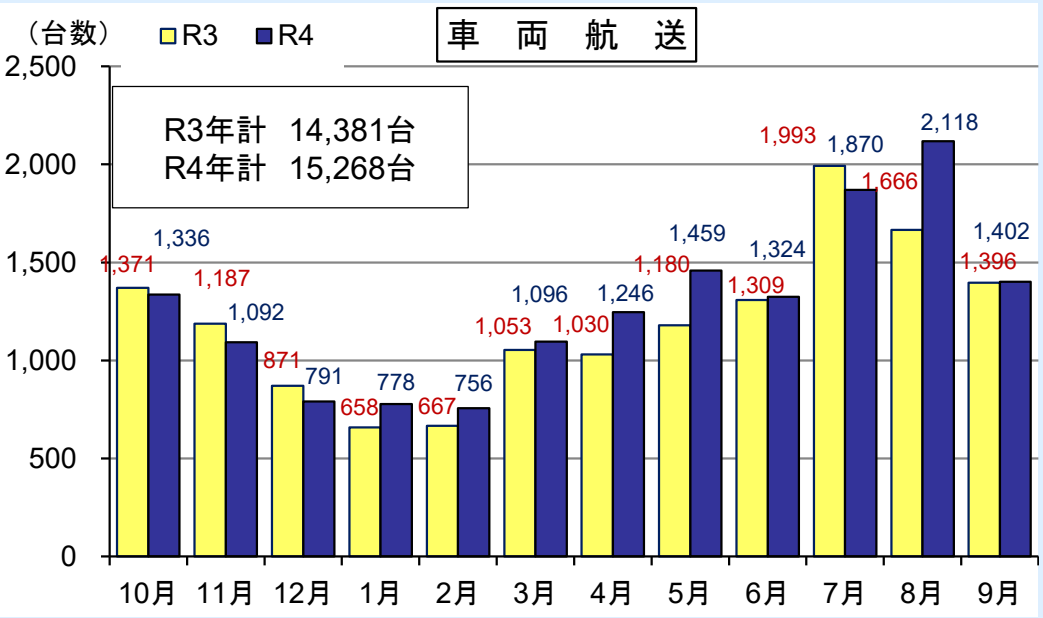
２）運航航路

航 路 名：江差～奥尻島航路
（起点　江差港～　終点　奥尻港）
港間距離：６１ｋｍ
所要時間：１３０分
運航ルート図：以下のとおり

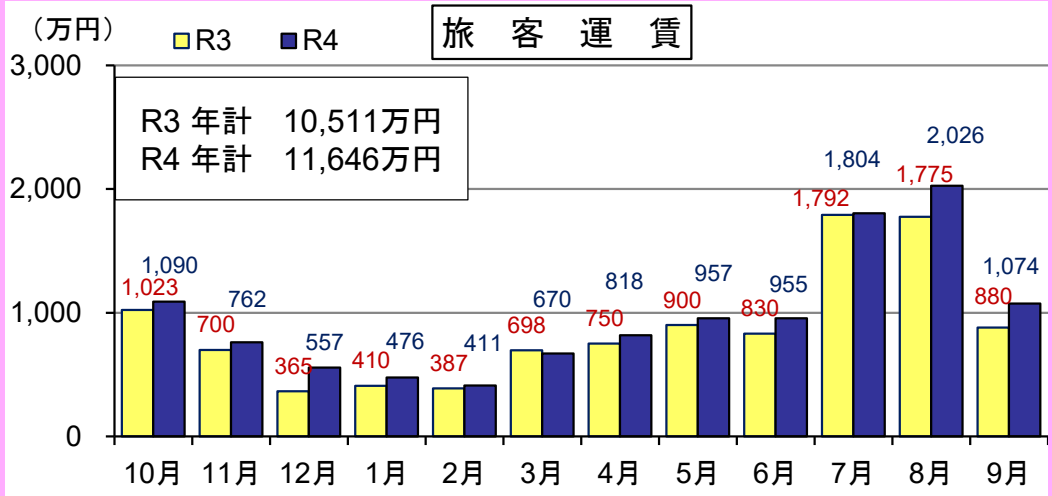


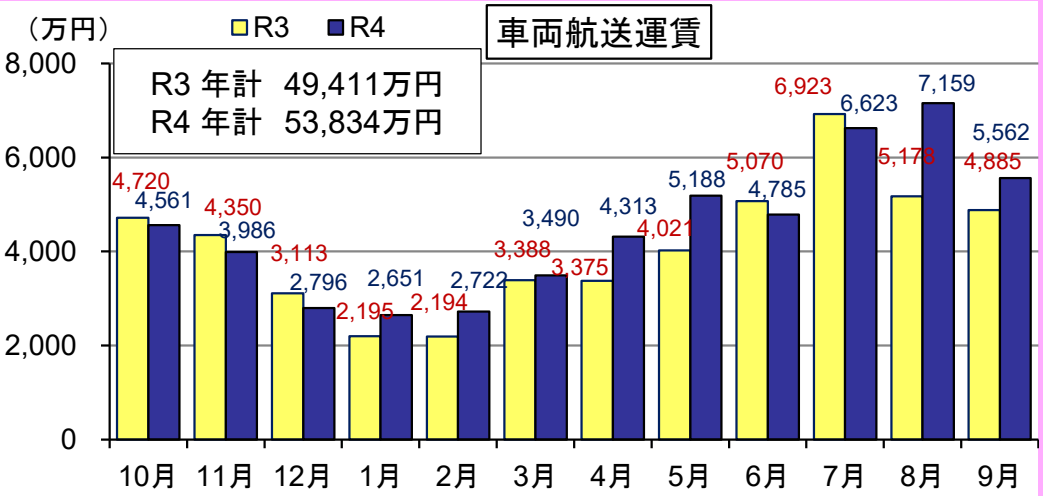
３）利用実績





４）収入実績





〔令和４年度の状況〕

・旅客輸送、旅客運賃：前年度と比較し、ほぼ全ての月で増加しており、年度計も増加。

・車両航送、車両航送運賃：前年度と比較し、増加している月が多いことから、年度計も増加。

5）事業実施の適切性

悪天候により欠航を行ったものの、コロナ禍で観光入込客数の回復が見通せないことから、運航経費を削減するための効果的な運航を行うことを目的に、夏期繁忙期後の令和４年９月の運航を１日４便から２便に変更する最低限の減便に留め、島民の生活航路としての機能を確保した。
（なお、同社運営の利尻・礼文航路においては、船員の新型コロナウイルス感染により一時的な減便を行ったものの、江差～奥尻島航路は、感染防止策を徹底し、同様の減便は発生しなかったもの。）

6）目標・効果達成状況

計画時の実績見込に対する達成状況については次のとおり。

●旅客輸送実績
目標値：51,480人　実績値：42,836人（▲ 8,644人/達成率： 83.2％）
●自動車航送実績
目標値：15,000台　実績値：15,268台（　＋268台/達成率：101.8％）
○運賃収入実績
・旅客運賃
目標値：125,119千円　実績値：116,456千円（▲ 8,663千円/達成率： 93.1％）
・自動車航送運賃
目標値：438,326千円　実績値：538,342千円（＋100,016千円/達成率：122.8％）
○収入合計
目標値：579,702千円　実績値：699,864千円（＋120,162千円/達成率：120.7％）
○費用合計
目標値：746,770千円　実績値：737,375千円（▲　9,395千円/達成率：101.3％）
●純損失（収入合計－費用合計）
目標値：167,069千円　実績値： 37,511千円（＋129,558千円/達成率：445.4％）

利用客が計画より減少しているが、工事車両等による自動車航送収入が増えて、収入が増加。費用についても人員削減等により大幅に減少し、欠損額も当初予定していた▲180,119千円（バンカーサーチャージ導入、運航ダイヤ変更（2往復→１往復）により欠損額167,069千円となった。）が▲37，511千円と大幅に欠損額を抑制したところ。

。

7）事業の今後の改善点

今年度は、補助対象初年度として、各関係機関と連携した各種割引の実施やイベント開催によるプロモーション活動等を実施してきたところ。
一部の広告宣伝事業の実施については、新型コロナウィルスの影響によるイベントは一部の実施に留まったが、今後の感染拡大の状況に注視しつつ、関係機関と連携した利用促進に向けた取組を継続していくとともに、一層の経費削減を行い欠損額の抑制に努める。

8）地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

新型コロナウイルスの影響により旅客数が減少するなど厳しい状況であったが、道路整備工事等の公共事業が多く施工されたことから工事車両等が増加した結果、運航収入は目標値より増収となった。また役員報酬の減額や人員削減等を実施するなど運航事業者自らも経費の節減を行い欠損額の抑制し、適切に事業が実施されている。今年度は旅客収入が目標値を下回ったが、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止対策をはじめとした取組を行い、コロナウイルスの感染状況に応じて関係機関と連携した旅客利用促進の取組みや奥尻島の魅力を発信するような宣伝広告を行い、フェリー利用促進を図るとともに、一層の経費削減を行い、欠損額の抑制に努めることを期待する。